

光れ！そえひっ子



平成 20 年 9 月 15 日発行

連絡先: 電話 73-2312 FAX 73-2313 有線 2301 HPアドレス <http://www.school.umic.jp/soehi/>

特集: 学校で二学期に力を入れることをお知らせします

学校自己評価中間(一学期)評価と二学期に最も力を入れて取り組みたいこと

学校では、4月当初の学校だよりなどで、本年度の傍陽小重点目標についてお伝えし、一学期の教育活動をすすめてきました。7月には、その取組のようすや子ども達の姿から保護者アンケートをお願いし、また、子ども達にも児童アンケートを実施しました。これらのアンケートをもとに夏休みをはさんで、全職員で一学期を振り返りながら、二学期の最重要事項を決めだし、改善策について考えてきました。このほど、まとまりましたので、保護者、地域の皆様にその概略をご報告いたします。

1 「めざす学校の姿」具現に向けて 最重要事項：積極的発信

【年度当初掲げた重点目標】

小規模校の特性を生かし、本物を大事にし、一人ひとりが光る学校。

保護者・地域住民が参画し、子ども・保護者・教師が光る学校。

保護者アンケートでは、9割以上の方から「よい」という評価(積極肯定6割以上)をいただきました。課題としては、職員自己評価から、「忙しくても見返しをしっかりとやりたい」という意見があり、また、保護者からも、よい取り組みについてもっと知りたいという意見がありました。

そこで、「学校のねがい、子どもの様子などを、これまで以上に積極的に発信していくこと」を二学期重点的に行うこととし、学校だより等をさらに活用していきます。



2 「めざす子どもの姿」具現に向けて

(1)【確かな学力】最重要事項：「イメージ化」できる授業

【年度当初掲げた重点目標】

学習内容を確実に身につけようとする子ども

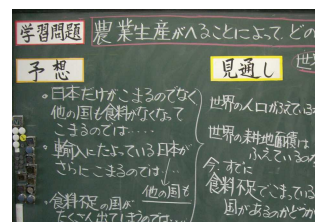
疑問などから、自力で学習課題を見だし、問題への解決に粘り強く取り組める子ども

子ども同士での教え合いや、調べ考えたことなどを表現する「発表学習」のできる子ども

【中間評価および最重要事項の改善策】

保護者アンケートからは、学力面について「もっと力をつけてほしい」という期待を持っていることが分かりました。また、児童アンケートからは、子どもにとって「今日の授業でやること」が、よく分かっていなかったり、教師の説明がよく分かっていなかったりすることがあるということが分かりました。一方、保護者から「もっと子どもに任せてやらせることも大切に。自主性ややる気につながってほしい」「子ども達に工夫や応用があまり見られない」という意見もあり、「学力」をただ「知識」があればいいとは考えておらず「学習意欲」「問題解決能力」などの力についても期待されていることが分かりました。職員自己評価からは、これらのアンケートをもとにして「もっと分かりやすく伝える」「授業の最後をもっとしっかり」といった「もっと授業をよくしよう」という意見が多くだされてきました。

これらのことから、二学期、「イメージ化」をキーワードとした授業改善を行っていくことにしました。具体的には、子ども達が、授業の始めには「何を学ぶのか」を、授業の終わりには「何を学んだのか」をそれぞれの頭の中に「イメージ化」できるよう授業の工夫をしていきます。



(2) 【豊かな心】最重点事項：いつでも、どこでも、だれにでもできる挨拶

【年度当初掲げた重点目標】

「おはよう」「ありがとう」などの挨拶を、誰に対しても進んでできる子ども

豊かなコミュニケーション能力をもつ子ども

いじめを絶対許さない心を持ち、人の心の痛みに気づいて、よりよい仲間関係を創り出していける子ども

異学年・対外的交流活動に進んで取り組み、自他のよさや違いに気づいて、違いを認め合える子ども

人の「いのち」とともに、動植物やものの「いのち」も尊重できる子ども

保護者アンケートからは、「豊かな心」にかかわる記述意見10件中7件が挨拶に関するものでした。うち、挨拶が良いという記述は2件のみ。保護者が挨拶を重視していることが分かりました。職員自己評価では、挨拶を生活目標として位置づけ、係からの提案を受けて取り組んでいることについて、肯定的な回答が多かったが、「挨拶の意味を考え、誰にでも進んでできるような指導」がまだ弱いと感じています。ただ、挨拶については、学校だけでなく「家庭」「地域」それぞれの場で、挨拶する心を育てていくことが大事であると考えています。



これらのことから、二学期、校内では一学期と同様に挨拶を毎月の生活目標として位置づけ、全職員で指導に当たっていくとともに、「挨拶の意味を考え、誰にでも進んでできるような指導」をすすめていくことにしました。同時に挨拶の大切さを校外にも呼びかけ、「家庭」「地域」でも挨拶する心を育てる指導をしてもらえるよう、学校だよりなどで、学校から積極的に発信していきます。

(3) 【健やかな体】最重点事項：汗をながせる清掃

【年度当初掲げた重点目標】

めあてを持って体力づくりに臨み、汗が流せるように励める子ども

正しい食習慣が身についている子ども

校内外の危険に気づき、事故の未然防止に努める子ども

健康を「自己管理」できる子ども

清掃を最後までやり抜き、汗を流す爽快感に気づける子ども

地域行事や大会に積極的に参加できる子ども

清掃指導については、本年度より重点目標として取り入れたものです。職員自己評価からは、「清掃の基本」や「ほうき・小ぼうきや雑巾の使い方、管理方法」について、十分な指導ができず、基本が身についている子といない子の差があるという意見がありました。

これらのことから、二学期以降、「清掃用具の使い方・管理方法」「清掃の基本」の内容について、学年に応じて、ていねいに指導していくことにしました。



3 「めざす教職員」具現に向けて

最重点事項：授業改善につながる研究

信頼関係の強化

保護者アンケートでは、「よい」との回答が9割を超えており、教職員の姿勢を大変よく評価いただいています。また、児童アンケートからは、「困ったことがあるとき、先生に相談できるか」の問いに「できる」という回答が8割。しかし、高学年になるにしたがって「できない」という回答が増えていることが分かりました。



職員自己評価からは、3回の授業公開と授業研究会について、授業や研究会に臨む姿勢（視点）をもう少し明確にしていきたいという意見が出されました。

これらのことから、第一に、「イメージ化」をキーワードとした授業改善につながる授業公開・授業研究会をよいものにしていきます。また、第二に、職員が、「信頼」をキーワードとして、それぞれの個性を発揮して子どもや保護者と接することができるような職員集団づくりをすすめ、何でも言い合うことができ、また、互いのよさに学び合える雰囲気さをさらに高めるため、「話し合う」時間を確保します。

最後に、「満点の授業もなければ、保護者・児童からの信頼がいかにも高くとも100%はありえない。そうではない保護者・子どもがいるかもしれない」という謙虚さを持ち、教育者としての専門性をさらに高めていきたいと思えます。

保護者・児童アンケート結果も載っている報告書を、ホームページ(アドレス前頁)に掲載しましたのでご覧ください。

特色ある教育活動：一学期の様子と二学期の予定

今回から連載で、傍陽小の「特色ある教育活動」についての紹介をしたいと思います。

活動名	一 学 期	二 学 期
ななかよし活動 (ア)兄弟学級 (イ)縦割り班	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金曜日の「みんなでつくる時間」10:25 -10:45 に実施。 (ア)(イ)とも、原則として月1回の活動を行って、異学年交流を図り「全校の誰ともなかよし」となれるように活動しています。 (ア)兄弟学級・・・1,6年,2,5年,3,4年がペアになり、上の学年が遊びを企画します。「上の学年の子ども達が、下の学年の子ども達のことを考え、自分たちで企画できる」力をつけることがねらいです。一学期は、3回実施しました。 (イ)縦割り班・・・各班10人(各学年1,2名)の12班編成で、6年生がリーダーです。6年生全員がリーダーとしての自覚と責任をもって、遊びます。一学期4回実施し、そのうち、最後は、リーダーが中心となり、班ごとに計画を立てて遊びました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月は、運動会のため、活動は一休み。ただ、「傍陽ちびっこオリンピック」の種目は、運動会用の縦割り班活動です。 ・ (ア)兄弟学級、(イ)縦割り班ともに10,11,12月に3回の実施を予定しています。 ・ 10月の参観週間には、「ななかよし活動」を位置づけ、参観していただく予定です。
中心とした栽培活動 みどりの時間を	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「みどりの時間」は、勤労生産的な活動(花や畑の栽培活動)として全校で年間10時間を確保して実施しています。 ・ 「花壇づくり」・・・花壇では、チューリップが春を彩った後、畑をきれいにし、夏の花を植えました。今、見事に咲いています。 ・ 「プランター」・・・パンジーの花が終わった後、兄弟学年ごとに夏の花を植え育てました。玄関前のサルビア、ペチュニア、ブルーサルビア、キンギョソウなど学校を彩っています。 ・ 「一人一鉢」・・・アサガオ栽培(1年:生活)、菊栽培(5,6年:総合)に取り組んでいます。菊栽培は、地域の方が講師になっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「花壇づくり」・・・夏の花終了後、11月にチューリップを植え、春を待ちます。 ・ 「プランター」・・・11月に、パンジーを植え、各教室で冬越しをします。卒業式には、パンジーの花で式場を飾ります。 ・ 「一人一鉢」・・・5,6年が育ててきた菊が校舎を飾ります。

二学期前半(8,9,10月)の生活目標(最重点項目「挨拶」に関して)

一学期の反省、学校自己評価の中間評価(保護者アンケート)を受け、二学期前半の生活目標では、最重点項目の「挨拶」についての目標を設定して取り組んでいます。

1 すぐに伝えよう「はい」の返事!

6・7月は「相手にとどく声 相手に伝わるはっきりとした返事」ということで取り組んできました。「はっきりした返事」については、相手の質問、相手の話に対して、すぐに反応を示すことが遅いことが気になります。名前を言われたら、「はい」感想を聞かれたら「はい」と言ってから自分の考えを伝えられる力が伸びていくことを願っています。8、9、10月は声の大きさもさらに意識しながら「はい」という返事に着目して、しっかり相手と向き合い、すぐに反応できる力をつけられるように各学級取り組みを考えて進めてほしいと思います。

2 自分からあいさつ!大きな声であいさつ!

学校評価の結果からもあいさつについて、さらに力を入れていく必要があるということを感じます。もう一度原点に帰って「自分から・大きな声で」ということに力を入れていきたいと思っています。声量、はっきりとした言葉に加え、笑顔でもコミュニケーションがとれるようにしたいですね。

学校での取組が、学校だけで終わらないよう、ご家庭でも次の指導をお願いします。

家族の人から何か頼まれごとをしたとき、注意を受けたとき、「はい」の返事を、「おはよう」「おやすみなさい」、「いただきます」「いただきました(ごちそうさまでした)」、「いってきます」「ただいま」の挨拶を「自分から、大きな声で」言えるよう。

学校と家庭とで手を取り合っ「あいさつ」のできる子を育てていきましょう。

校長室から

『挨拶』 森信三 講述 「一つ一つの小石をつんで」より

学校自己評価の中間評価を受けて2学期の「豊かな心」の最重点項目は『いつでも、どこでも、だれにでもできる挨拶』です。これを受けて、2学期前半の生活目標が「(1)すぐつたえよう「はい」の返事、(2)じぶんからあいさつ 大きな声であいさつ！」に決まり、いま全校で取り組んでいます。

森信三先生(教育学者・哲学者)はしつけの三大基本として、挨拶、返事を上げています。

しつけについては、わたくしの考えでは、根本的な事柄を三つしつければ、それで親の根本の責任はすむという考えです。第一は、「朝必ず親に挨拶をする子にする」ということです。ですから、もしこれできていなければ、親のしつけ点は33点引かれて、67点ということになります。次に、第二のしつけとしては、「親に呼ばれたら、必ず“ハイ”といて“ナアーニ”と言わない子にする」ということです。ですから、この二つができなかったら、100点満点中の、33点しかないわけで、話にならないヒドイ落第点というわけです。第三は、「席を立ったらイスを出しっぱなしにしないこと、また、ハキモノをぬぎっぱなしにしない」ということです。根本的には以上の三つがリッパにできる子どもにしたら、親としてのしつけの責任はそれで一応終わりというわけです。

ではどうしたらわが子を、朝、親に対して挨拶をし、呼ばれたら「ハイ」と返事をする子にできるかと申しますと、それには結局、皆さん方が、その模範を示すしかないのであります。それというのも、子どものしつけというものは、お説教ではできないものでして、しつけの責任者たる、母親(父親)自身の実行によるほかないからです。

ですから、朝起きられたら、ご主人(奥さん)やお子さん方に、「お早うございます」と挨拶することが根本で、皆さん方がこれさえ行えば、お子さんたちは、皆それにならって、朝の挨拶ができるようになるわけです。

そして、皆さんがご主人(奥さん)に呼ばれて「ハイ」とご返事をなしたらもうそれだけで、家庭はリッパに軌道に乗ります。それというのも「ハイ」という返事は、「我」がなくなったという証拠だからです。同様に、ご主人(奥さん)に呼ばれて「ハイ」と言えないということは、まだ心の底の「我」がとれていない証拠です。同時にこれは、子どもの場合でもまったく同じであります。ですから、親に対して朝「おはようございます」と挨拶ができ、また親から呼ばれて「ハイ」とリッパな返事ができるようになれば、まずしつけの軌道に乗ったといてよいでしょう。皆さん方でも、ご主人(奥さん)に呼ばれて「ハイ」と言えたら、「我」のとれた証拠ですから、もう子どもたちが見ていてハラハラするような夫婦げんかは、しなくなります。もし、「ハイ」といえないとしたら、まだ、「我」が残っている証拠です。「でも照れくさい」という底にも、まだ「我」が残っている証拠です。

同じように、子どもに対しても、親に対して朝の挨拶と、呼ばれて「ハイ」という返事ができるようになったら、「我」が抜けた証拠で、親のいうことが聞けるようになるわけです。そして、それをしつけるには、先ほどから申すように、お説教ではだめで、親ごさんがご自身で実行なさるほかないのであります……以下略……

日々の生活に挨拶は欠かせないし、挨拶する以上は心のこもったものにしたいと思います。私自身ろくな挨拶ができず、恥ずかしいのですが、次の2点を大事にしようと思っています。「一つは目と目を合わせて挨拶する」ということ、もう一つは「挨拶の次の言葉を心で述べる」ということです。

今朝、おひとりの先生が校長室の窓の外を歩きながら、あいさつをされ、行き過ぎてから、一・二歩もどられて覗き込むように私の目を見てまた歩いて行かれました。それは、「おはよう」の次に「お元気ですか」の一言を添えられたのかもしれません。

学校長 佐藤照雄